

コミュニティバス検討委員会を設置し、皆さんからの要望をもとに運行計画案を作りました。

結果、計画案に対して頂いた多くの意見や要望を基に、障がい者運賃の半額化や車両のミニサイズ化、ルート変更を行い、運行計画を決定しました。

枝豆をイメージしたバスが 市内3ルートで運行開始

計画案に対する意見とともに、愛称の募集も行い、367件の応募の中から小回りのきくミニサイズバスということ、皆さんにこまめに乗って貰いたいこと、全

国有数の枝豆の産地ということから、名前は「まめバス」に決めました。

料金は100円均二（乗継ぎ含む）、市内3ルート（北・中・南）で平成16年1月から運行を開始しました。

その結果、予想を上回る利用があつたため、皆さんのさらなる要望にお応えする形で、17年4月に関宿城ルート新設などの増ルートや増便を行い、19年9月には利用者が100万人を超えることができました。

その後も、小回りのきく市民の足としてご利用いただいた結果、22年7月に200万人、25年9月には300万人を突破しました。

まめバス名付け親

の
声

「こまめに乗って貰いたい」という気持ちを含めて

相澤 渉さん

（当時南部中学校2年生）

名前応募当時を振り返ると、こまめに利用して貰いたいということと、野田市が枝豆の有数の生産地であることを考えて「まめバス」という名前を考えてみました。

私も高校生のころには、

図書館を利用する時にはよく乗っていました。が、100円均一で行けたのが良かったのです。

最近の仕事が忙しくてなかなか乗れませんが、ルートも多くなつたようなので、これから暖かい陽気の時期になったら、まめバスを利用して市内観光でもしてみたいですね。

景気低迷の影響などで 運行計画を抜本的見直し

市では、経費削減とサービス向上を進めてきた結果、平成19年10月には、合併による行革効果の実額が当初予想よりも進んだことから、運行経費の上限額を6千800万円に引き上げ、2ルート（新北・新南）を増やすなど、皆さんの要望にできるだけ応えてきました。

しかしながら、20年秋以降の景気低迷などによる利用者数の大幅な減少や車両更新に伴う経費増などから、運行経費の上限額を守りながらの運行ができなくなりました。

そこで市では、皆さんの交通手



運行5周年を記念してユニークな車体のチョロQを限定販売

段として定着してきたまめバスを、今後も継続運行していくため、23年に利用者の利便性に配慮しつつ、抜本的に運行計画を見直しました。

利用者が少なかったルート（関宿城・新北・中・新南）は、土・日・祝日の運行を取りやめるほか、一部ルートを短縮、最終便の廃止を行う一方、要望の多い病院やスーパーなどに乗り入れるルートに変更しました。

また、乗り継ぎ券を廃止し、全ルート乗り放題の一日乗車券（200円）の販売も開始しました。

今後も継続的な運行ができるよう、買い物や通院などにも便利なまめバスをぜひご利用ください。



要望に応え病院への乗り入れも開始（写真は野田病院）